

醜貌へのとらわれに関する日韓比較研究

— 加齢による外見の変化を焦点に —

筑波大学大学院人間総合科学研究科 李 貞美

筑波大学大学院人間総合科学研究科・心理学系 小川 俊樹

A Comparative research on the characteristics of appearance concern between Japanese and Korean— focusing on the changes of looks by getting old —

Jungmi Yi and Toshiki Ogawa (*Institute of Psychology, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)

Recent studies suggest that appearance concerns are increasing in Korea and Japan. Especially women are strongly interested in their appearance than men are. And it is not easy to deny that younger appearance is preferred. Women may worry about their changes of appearance by getting old. Therefore as one factor of appearance concerns, this research focuses on the changes of looks by getting old. Female undergraduate and graduate students in Japan and Korea answered the questionnaire on the concept of getting old. The result suggested that the image of 「getting old」 may have an influence on appearance concern and cross-cultural implications were also acquired.

Key words: appearance concern, getting old, mental health

問題と目的

Moon & Yoo (2003) は対人関係の増加と職業の専門化とともに自分のイメージをアピールする機会が増え、外見への関心が高くなったと指摘している。また、Hong (2006) によると、特に韓国の20代の女性は社会の中で成功するためには魅力的な外見が重要だと思ふ傾向が強いと述べている。このように外見が重要視される中で、Lee & Ku (2006) は男性より女性の方が若く見えることは嬉しいと感じており、外見に関する男女差が観念化されていると指摘している。女子大学生497名を対象としたLim (2004 a, p106) の研究では、「美容整形の経験のある人は約11%、美容整形したいと思ふ人は約23%」であり、女性にとってキレイに外見を磨くことは重要であると認識されていることが示された。

一方、日本でも太田 (1998) は自分の顔が醜いと思ひ悩んでいる若者が増えている現状について述べ

ている。また日本の大学生を対象とした馬場 (1997) の研究では、女性の場合は身体へ高い関心を持っている人の方が身体に不満足感をより強く持っていることが示され、身体に対する男女の認識の差について述べている。この結果からも、女性の外見に対する高い関心が窺える。

以上のように女性にとって外見の美醜は重要なことであり、女性にとって外見を磨くことは満足感と楽しさを与えてくれるものだとも言えよう。しかし、外見にとらわれ過ぎると精神的な健康を損なうことにもなってしまうかねない。Kim (2005, p268) によると、「外見ストレスとして『外見のせいで異性を会うことが気になる』の回答が一番高く、『外見に関する劣等感がすべてのことに影響する』、『私の顔の中で直したい部分がある』、『外出する時に自分の姿が気に入らなく肩を落とす』」などがあげられている。このように、女性は自分の外見の美醜と関連して良くも悪くも多様なストレスを受

けていると考えられる。また、女性によっては自分の身体の中で醜いところがあると思ひ、その醜さの意識にとらわれる者もある。

そこで本研究では「醜貌へのとらわれ」という概念を用いて、客観的な根拠がないにもかかわらず、自分の身体の醜さにとらわれることに及ぼしている要因について検討したい。すなわち、本研究での「醜貌へのとらわれ」とは「①自分の容貌に身体的欠陥が無いに関わらず、特定の身体部分が常に気になり」、「②“醜いからどうにかしたい”、“ここが気に入らない”などとストレスを受けており」、「③そのせいで、時には人に会うことが嫌になることはあるが、社会的・職業的な場面で支障をきたすほどではない」と定義する。

そのような中で、大坊（1997, p85）は「保護的な「子ども顔」について言及しており、若さは美しさを判断する際に重要であると述べている。女性にとって、外見に関連するストレスの要因は様々であるが、「年をとる」ことも大きな影響を与える要因として考えられる。そこで本研究では20歳代の女性が「年をとる」ことによる外見の変化をどう受け入れているのかを検討するために、「年をとる」ことによって変わる外見に関する女性の認識を調査する。そうすることで「醜貌へのとらわれ」の一側面を理解することができるのではないと思われる。

大坊（1997, p83）が「顔の魅力を考えていくことは個々人の特徴にとどまらず、その背景にある社会や文化を考えることに通じることでもある」と述べているように、外見に関する心理学的研究を通して日本と外国の文化に対するお互いの理解を深めることが出来ると言えよう。しかし、醜貌へのとらわれに関しての日韓比較研究はほとんど行われてきていない。そこで本研究では、比較文化心理学的観点から、「醜貌へのとらわれ」の側面からみた「年をとる」という概念を日韓の女性がどう経験しているかを調査し、比較・検討することを目的とする。

方 法

<調査期間>

2006年11月～12月。

<調査方法>

個別記入式の質問紙調査で実施された。著者が調査の主旨や個人情報保護について質問紙の表紙や口頭により説明し、調査協力者が調査協力に同意する場合は表紙に設けてある「調査に協力する」という項目に○をつけてもらい、無記名で回答が行われた。実施時間は約15分であった。

<調査対象>

韓国の首都圏の女子大生・女子大学院生239名（平均年齢22.2歳, SD=2.1）。日本の東海圏と関東圏の女子大生・女子大学院生215名（平均年齢20.5歳, SD=2.1）。なお、質問毎に回答率が異なっているので、回答人数を各質問の結果とともに示す。

<調査内容>

「加齢」のイメージと醜貌へのとらわれに関する自由記述を行った。

女性において加齢と醜貌へのとらわれについての態度を検討するため【今から約10年の間（近い未来）でのあなたの外見の変化を想像しながら次の質問にお答え下さい】という教示で、「年をとる」ということのイメージ、年をとっても実際の年齢より若くみられたいと思うか否か、そして、年をとるにつれ一番気になる外見の変化は何か、の3点について自由記述を求めた。

結果と考察

1. 「年をとる」ということのイメージ（Table 1参照）

無記入の回答を除いたところ、協力者は韓国女性群225名、日本女性群221名であった。得られた加齢のイメージを臨床心理学専攻の大学院生2人と著者がグルーピングを行なった。その結果、回答はTable 1のように分類された。

Table 1の結果から、「年をとる」ということのイメージに関して日韓の特徴を考察してみよう。「皮膚老化と体力低下」の項目が日韓共に1位であり、韓国は22.2%、日本では57.9%を占めている。このように日韓ともに女性は加齢による老化を気にしていると言える。10代から50代の女性を対象とした松岡・櫃本・原・村山・道官（1998, p330）の研究でも年齢に敏感な女性の特徴が窺え、女性から見て魅力を感じる女性の年齢を調査した結果、「10代、20代、30代前半までは、自分の実年齢よりも少し上の女性に魅力を感じるが、30代後半以降は自分の実年齢よりも若い女性に魅力を感じ、実年齢が高くなるほど、魅力を感じる女性の年齢との開きは大きくなる」ことが明らかになった。このような結果はTable 1の「怖いイメージ（韓国：6.2%、日本：2.3%）」や「女性として魅力喪失（韓国：4.4%、日本：1.8%）」と通じると言えよう。「皮膚老化と体力低下」の次は、「内面と外見の成熟（韓国：20.0%、日本：5.9%）」と「経験と知識豊富（韓国：12.4%、日本：10.0%）」が日韓ともに上位を占めている。この結果からは日韓の女性は加齢に伴

Table 1 「年をとる」ということのイメージの日韓比較

カテゴリ	韓国			日本		
	人数	回答率(%)	順位	人数	回答率(%)	順位
皮膚老化と体力低下	50	22.2	1	128	57.9	1
内面と外見の成熟	45	20.0	2	13	5.9	3
経験と知識豊富	28	12.4	3	22	10.0	2
怖いイメージ	14	6.2	4	5	2.3	7
人生や人格が顔に出る	13	5.8	5	2	0.9	12
自己管理の重要性	10	4.4	6	5	2.3	8
女性として魅力喪失	10	4.4	6	4	1.8	9
自然に受け入れなければならないこと	8	3.6	8	0	0.0	順位外
魅力増加(重厚・美しさ)	6	2.7	9	6	2.7	6
楽しさを見つける	5	2.2	10	2	0.9	12
穏和な雰囲気	5	2.2	10	0	0.0	順位外
時代遅れ・流行に乗り遅れる	3	1.3	12	1	0.5	15
社会的制約	3	1.3	12	1	0.5	15
社会的責任	3	1.3	12	0	0.0	順位外
美しい大人の女性	2	0.9	15	7	3.2	5
醜くなる	2	0.9	15	4	1.8	9
上品・洗練	2	0.9	15	3	1.4	11
家庭を持つ	2	0.9	15	1	0.5	15
生活安定	2	0.9	15	1	0.5	15
年をとること	2	0.9	15	1	0.5	15
成熟すること・少し悲しいこと	2	0.9	15	0	0.0	順位外
キャリアを持つ	2	0.9	15	0	0.0	順位外
外見より内面が重要	2	0.9	15	0	0.0	順位外
自分だけの個性を持つ	1	0.4	24	1	0.5	15
気にしない	1	0.4	24	1	0.5	15
個性を発揮できない	1	0.4	24	0	0.0	順位外
生活に対する情熱が大きくなる	1	0.4	24	0	0.0	順位外
大人への成長	0	0.0		9	4.1	4
自己理解	0	0.0		2	0.9	12
自立	0	0.0		1	0.5	15
親に似ていく	0	0.0		1	0.5	15
嫌なような楽しみなような感じ	0	0.0		1	0.5	15
分からない	0	0.0		1	0.5	15
計	225	100		221	100	

うネガティブなイメージだけでなく、内面の充実さを期待していることもわかる。また「人生や人格が顔に出る(韓国:5.8%,日本:0.9%)」という回答では日韓で差が見られ、日韓の社会観の違いが窺える。大坊(1997, p88)は、「日本では「顔じゃない心」に対して、韓国の諺の「心のきれいな人は顔も美しい」に象徴されるように、「形の美イコール内面美」という図式がある」と指摘しており、日韓の美意識の違いについて述べている。

Table 1の「人生や人格が顔に出る」という回答

は「顔」を重視する韓国女性の意識を反映しているといえよう。このような意識は「自己管理の重要性」(韓国:4.4%,日本:2.3%)の回答とも関連があると言えよう。Kim & Lee (2007, p31)は、「外見管理行動は生まれつきの自分の外見に対して

- 1) 本研究において「自己管理の重要性」としてまとめた内容は、「自分の外見を美しく保つために外見管理行動(化粧、皮膚管理など)をして努力するのは重要だ」という内容が含まれている。

外見管理行動をすることによって自分の短所を長所に変えられるという認識から始まる」と述べ、現代社会での外見管理行動の重要性について言及している。また Cho & Choi (2007, p830) の研究では韓国女子大生が多く行う外見管理行動は「化粧, 体重管理, 皮膚管理, 美容整形の順」であることが示された。Lee (2006) は現代の消費者は美に関する様々な広告により, 自分の身体は自分で統制できると説得されると指摘している。

そして日本女性群の場合は, 「大人への成長 (4.1%)」「美しい大人の女性 (3.2%)」「魅力増加 (2.7%)」が4位から6位を占めているのに対し, 韓国女性群の場合は, 「怖いイメージ (6.2%)」「人生や人格が顔に出る (5.8%)」「自己管理の重要性 (4.4%)」「女性として魅力喪失 (4.4%)」が4位から6位を占めていることからわかるように, 韓国女性群は日本女性群より「年をとる」ことについてネガティブなイメージをより強く持つ傾向があると言える。また, 自分の外見に責任を持ってきれいに保つことを願う韓国女性群は, 「年をとる」ことによる外見の変化に敏感であることが推測できる。以上を踏まえると, 加齢による外見の変化を気にすることは韓国女性の場合, 醜貌へのとらわれの一要因になる可能性がより高いことが窺える。

2. 「若く見られたいと思う・思わない」に関する回答率 (Table 2 参照)

無記入の回答を除いたところ, 協力者は韓国女性群217名, 日本女性群211名であった。回答は先ほどと同じ方法によって34項目に分類された。

韓国女性群の場合は72.7%, 日本女性群の場合は80.8%が「若く見られたいと思う」と答えており, 大多数の女性は若く見られたいと思うことが示唆されたが, 「若く見られたいと思わない」女性の方の割合も予想を上回る結果となった。

2-1. 若く見られたいと思う理由 (Table 3 参照)

大坊 (1997) は, 顔の魅力において衰えていくことを恐れて嫌う傾向は広く見られるようであると述べている。本研究の「若く見られたい」と思う理由として, 多くの日韓の女性が「若く見られるのは嬉

しいし, キレイで活気があり若々しくいたい」と思う点で類似した意見を見せたことは大坊 (1997) の意見を支持する結果であった。また両国女性群の「社会的なメリットがある・得する (韓国: 6.9%, 日本: 5.2%)」という回答からも, 若い女性を優遇する社会の認識と態度が窺える。

次に日韓の社会観の違いを示唆する結果を考察しよう。韓国女性群の回答の中で「自己満足・自身 (韓国: 7.5%, 日本: 1.2%)」という回答が5位を占めているが, この結果からは韓国女性群は外見を若く保つことで満足感と自信が増すと考える傾向が窺える。また韓国女性群の方が日本女性群より, 若く見られるのは「外見管理と努力 (韓国: 5.6%, 日本: 1.7%)」をした証拠であると認識する傾向を見せた。そして「社会的に童顔が主流 (3.8%)」「親和力がある・若い人との交流や人間関係 (3.8%)」の回答は韓国女性群のみ (共に9位) にみられたことは興味深いことであり, この結果から若い外見を好む韓国の社会観を垣間見ることができるといえよう。

他には少数意見ではあるが, 「男性が若い女性を好む」「年を知られたくない」という回答は韓国女性群のみに見られた。韓国の女子大生を対象とした Lim (2004b) の研究では, 外見は結婚の相手や就職まで影響を及ぼすと思われることが示された。また先述の松岡ら (1998) の研究では10代から50代の女性を対象に言われて不愉快に思う年齢を調査したところ, 女性には自分の年齢を含めて少しでも上に見られるのを嫌う傾向がみられた。これらを踏まえると, 女性にとって年齢は気分を左右するような敏感な問題であると言えよう。

2-2. 若く見られたいと思わない理由 (Table 4 参照)

次に, 若く見られたいと思わない理由に関しては, 韓国女性群と日本女性群ともに「年齢相応でない」「今若く見られているから」が上位を占めている。日本女性群に比べて特徴的な回答は韓国女性群の「年齢に応じた良い待遇 (若く見えると無視される) (12.3%)」であった。若く見られたいと思う理由として韓国女性群は「社会的なメリットがある・得する (6.9%)」を挙げたが, 若く見られたいと思わない理由として「年齢に応じた良い待遇 (若く見えると無視される) (12.3%)」が挙げられた。これは韓国社会の「年上の人を敬う」という傾向を象徴する結果である。

Table 2 日韓別「若く見られたいと思う・思わない」の回答率

	韓国		日本	
	人数	回答率(%)	人数	回答率(%)
若く見られたいと思う	160	72.7	172	80.8
若く見られたいと思わない	57	25.9	39	18.3

Table 3 若くみられたいと思う理由

カテゴリ	韓国			日本		
	人数	回答率(%)	順位	人数	回答率(%)	順位
若々しくいたい (老けて見られたくない)	27	16.9	1	36	20.9	2
活気がある	22	13.8	2	17	9.9	4
若くみられたいのは当然の欲求	20	12.5	3	1	0.6	17
若い=キレイ	17	10.6	4	44	25.6	1
自己満足・自信	12	7.5	5	2	1.2	12
社会的なメリットがある・得する	11	6.9	6	9	5.2	5
外見管理と努力	9	5.6	7	3	1.7	9
若く見られると嬉しい	7	4.4	8	29	16.9	3
社会的に童顔が主流	6	3.8	9	0	0.0	順位外
親和力がある (若い人との交流や人間関係)	6	3.8	9	0	0.0	順位外
今まで若くみられていないから	3	1.9	11	5	2.9	6
楽しそう	3	1.9	11	4	2.3	8
外見は内面の表れ	3	1.9	11	3	1.7	9
社会的責任減少	3	1.9	11	1	0.6	17
男性が若い女性を好む	2	1.3	15	0	0.0	順位外
年を知られたくない	2	1.3	15	0	0.0	順位外
今若く見られているから	1	0.6	17	0	0.0	順位外
年齢相応でいい	1	0.6	17	2	1.2	12
健康的	1	0.6	17	2	1.2	12
何となく	1	0.6	17	2	1.2	12
人に頼れる	1	0.6	17	0	0.0	順位外
女性にとって若さは自由だ	1	0.6	17	0	0.0	順位外
美容業界の人はそう思う	1	0.6	17	0	0.0	順位外
好きな服が着られる	0	0.0		5	2.9	6
子どもの自慢のママになりたい	0	0.0		3	1.7	9
心だけでも若くしたい	0	0.0		2	1.2	12
女性としてみて欲しい	0	0.0		1	0.6	17
充実した生活	0	0.0		1	0.6	17
計	160	100		172	100	

3. 年をとるにつれ一番気になる外見の変化 (Table 5 参照)

無記入の回答を除いたところ、協力者は韓国女性群234名、日本女性群108名であった。2つ以上の内容が書いてある重複回答もあったが、「一番気になること」に関する質問であったことから、最初に記入した回答を基準として回答者一人につき1つの回答として集計した。同じキーワードが書いてある回答ごとに、著者が分類を行った。

「年をとるにつれ一番気になる外見の変化」に関する回答においては、韓国女性群の方 (84.2%) が日本女性群 (59.3%) より「顔の変化・肌老化 (しわ, たるみ, そばかすなど)」に対する懸念が高いことが明らかになった。20~50代の女性を対象とした Lee & Park (2000, p100) の研究でも「卵型の

小さい顔, 白くてキレイなお肌, シワのない弾力ある皮膚状態の時に外見に満足し, その逆の場合は満足出来ない」という結果が見られた。

それに対して、日本女性群は体型やぜい肉を心配する比率が高かった。この結果からは、韓国女性群において顔の重要性を強調する風潮が影響していることが窺える。

まとめ

本研究では女性の「醜貌へのとらわれ」の一要因として「加齢による外見の変化」について検討した。日韓女性群は「年をとる」ことに対して、自分を磨くことによって年を重ねることで自信が持てる、経験と知識が豊富になるというポジティブな回

Table 4 若くみられたいと思わない理由

カテゴリ	韓国			日本		
	人数	回答率(%)	順位	人数	回答率(%)	順位
年齢相応でいい	26	45.6	1	24	61.5	1
今若く見られているから	7	12.3	2	9	23.1	2
年齢に応じた良い待遇(若く見えると無視される)	7	12.3	2	1	2.6	5
自然なことだ	5	8.8	4	0	0.0	順位外
若く見られるのは望んでない	3	5.3	5	1	2.6	5
成熟美	3	5.3	5	0	0.0	順位外
若々しくいたい(老けて見られたくない)	1	1.8	7	2	5.1	3
社会的なメリットがある・得する	1	1.8	7	0	0.0	順位外
外見は内面の表れ	1	1.8	7	0	0.0	順位外
気にしない	1	1.8	7	2	5.1	3
年取った女性に対する偏見が嫌だ	1	1.8	7	0	0.0	順位外
若く見えること以外でも自分を表現できる方法はある	1	1.8	7	0	0.0	順位外
計	57	100		39	100	

Table 5 年をとるにつれ一番気になる外見の変化の日韓比較

カテゴリ	韓国			日本		
	人数	回答率(%)	順位	人数	回答率(%)	順位
顔の変化・肌老化(しわ, たるみ, そばかすなど)	197	84.2	1	64	59.3	1
ぜい肉, 肥満	14	6.0	2	14	13.0	3
体型	8	3.4	3	15	13.9	2
髪	3	1.3	4	2	1.9	6
分からない	3	1.3	4	0	0.0	順位外
筋力・体力	2	0.9	6	3	2.8	5
ない	2	0.9	6	1	0.9	8
背骨が曲がる・姿勢	1	0.4	8	4	3.7	4
手	1	0.4	8	1	0.9	8
穏やかな印象でいたい	1	0.4	8	0	0.0	順位外
若いカジュアルが着られない	1	0.4	8	0	0.0	順位外
歯	1	0.4	8	0	0.0	順位外
全て	0	0.0		2	1.9	6
お尻	0	0.0		1	0.9	8
身長が減る	0	0.0		1	0.9	8
計	234	100		108	100	

答もあったが、多くの女性は「加齢による外見の変化」というネガティブなイメージや怖いイメージを持っていることが示された。

顔へのこだわりに関しては韓国女性の方が日本女性よりも強く、この差は日韓の社会文化が反映されていると推察された。韓国女性にとって「加齢」は「醜貌へのとらわれ」の一要因として日本女性より強く認識される可能性が窺えた。

引用文献

- 馬場安希(1997). 女性役割としての美・従順の葛藤構造 性格心理学研究, 6, 69-70.
- Cho HyeRan & Choi Jongmyoung (2007). 大学生の性別による身体満足度と外見向上行動との関係 韓国生活科学誌, 16, 825-835.
- 大坊郁夫(1997). 顔の社会心理学: 魅力的な顔は普遍? *Behavioral Science Research*, 36, 83-

90.

- Hong Keum-Hee (2006). 外見の社会文化的態度と身体肥満度が身体イメージと身体満足度に及ぼす影響 韓国衣類産業学会誌, 8, 48-54.
- Kim KyungMi (2005). 女性の外見関心度による漢方化粧品の購買属性 韓国美容学会誌, 11, 265-271.
- Kim Sung-Nam & Lee Kyoung-Sook (2007). 20～40代女性の外見関心度による外見管理行動 *Journal of Fashion Business*, 11, 29-41.
- Lee Hyun-Ok & Ku Yang-Suk (2006). 女性の外見管理行動の動機研究 - 整形手術・肥満体型管理事例を中心に - 韓国衣類産業学会誌, 8, 113-122.
- Lee Hyun-Ok & Park Kyungae (2000). 女性消費者の外見満足度：外見類型と外見意識との関係 大韓家庭学会誌, 38, 93-102.
- Lee Yoon-Jung (2006). 広告モデルとの社会的比較過程で外見統制力知覚が持つ調整効果 韓国衣類学会誌, 30, 633-643.
- Lim In-Sook (2004a). 外見差別社会の整形経験と意向 韓国女性学, 20, 95-122.
- Lim In-Sook (2004b). ダイエットの社会文化的環境 - 女子大生の外見差別経験とメディアの身体イメージ受容度を中心に - 韓国社会学, 38, 165-187.
- 松岡美季・榎本久美子・原三枝子・村山久美子・道官克一郎 (1998). 顔の認知と化粧の心理的効果 [8] 顔の自己受容に関するマインドエイジの測定 デザイン学研究 研究発表大会概要集, 45, 330-331.
- Moon Hey-Kyoung & Yoo Tai-Soon (2003). 自尊心重感、外見関心度と衣服態度及び化粧度に関する研究 服飾, 53, 101-112.
- 太田啓之 (1998). 思春期を襲う醜形恐怖症 増加中 - もう、この顔では生きていけない! 週刊朝日 朝日新聞社 11月6日号 155-157.

(受稿10月31日：受理11月8日)